

新中同窓会報

発行 新中同窓会事務局
印刷 新中同窓会事務局

会報発刊にあたってー雑感ー



同窓会会長 松田正実

新潟地震、新潟国体、そして東京オリンピックのあつた昭和39年度卒の松田正実です。今年度、新中同窓会会長を拝命しています。

先日「藤野が丘同窓会名簿校舎改築記念改訂版」(平成4年3月発行)を開いてみました。昭和22年度第一回卒業生から、昨年度の卒業生を含めて、6,449名の卒業生がいます。全て、同窓会会員です。

そのあとがきに「同級生というのも、一生お付き合いとなる因果なヨコ社会であります」と書かれています。同級会がヨコ社会であれば、同窓会は先輩後輩の関係であり、タテ社会と言えなくありません。指示、命令があるわけでもありませんが、「先輩の言うことなら...」後輩のために...といった気持ち

が自然に湧いてきます。同じ学校で学んだことが、連帯感のようなものを生むでしょう。

人の成長期にあつて、特に多感な思春期真っ直中の中学校3年間時は、心身ともに大きく成長する時期です。中学校生活の中で、学習や部活等で経験したことは、それぞれの心の中に芯と

して残り、時として元気づけ勇気づけてくれるものであつたと思います。そんな原風景の中に「同窓生」が存在していることと思います。

平成3年に校舎、5年には体育館の改築がなされ、現在のようになつてまいりました。また、生徒数も大きく変わっています。いわゆる団塊の世代で、1学年の生徒数約200名、全校生徒数が600名を若干下回るほど高年齢化が進み、現在は、その十分の一余りです。しかし、生徒は、これまでの同窓生と同じように、それぞれ活躍し日々成長しています。このことは体育祭や文化祭等々の活動を通して感得できます。そして、これから入学してくる生徒も同様でしょう。

さて、会の目的は「会員の親交をあたため、母校の隆盛に貢献すること」と会則で定めています。具体的には、隔年での会報発行、毎年の総会・懇親会開催、学校への支援を行っています。中学校の同窓会としてこのような活動を着実にやっているのは、他に余り例を見ないようです。これも新中という地域



のまとまり、とりわけ会員各位の協力があつてこそと思います。今、学校教育も変わりつつあるようです。知力、体力、気力の向上を図ることは以前と変わりませんが、郷土を学び郷土を愛し郷土を誇りに思う心を育む事も重視されています。今こそ、地域の教育力のひとつとして、会員の皆様が、それぞれの立場や方法で中学校の教育活動を支援していただくことを期待します。

最後になりましたが、この会報発行にあたり、ご多用の中玉箱をお寄せいただいた方々に感謝申し上げますと共に、会員各位のご健康と今後益々のご発展を祈念いたします。

一人当たり2,905円



新中中学校校長 大谷直治

今年度の全校生徒は69名、1学年23名平均、部活動男女合わせて四、隔世の感です。季節晴雨関係なく父母、祖母による車の送迎増。自分専用のスマホ利用者増。保護者の仕事のきつさの反映で「ネット・スマホ」時代での生徒の起床の遅れの反映もありません。

そんな中でも変わらないものもあります。私はそれを、新中の知恵、地域の愛と表現しています。昭和23年、戦後すぐ発足の学校後援会(小中)は、今年も地域の方々709名から、359,500円のご寄付を頂戴しました。当同窓会も卒業証書ホルダー等の生徒に関係する寄付は、今年も約10万円を予定しています。生徒一人当たりの地域からの援助は毎年、年間約3千円になります。このような地域が他に

あるでしょうか。これ以外にも、部活動のユニフォームや入学式、卒業式の看板新調、音楽発表会合唱台の新設、グラウンド・テニスコートの整備補助など多くの援助を随時受けています。

他方、今年度佐渡市より、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)のモデル校指定を受けました。これは、国が推進する「地域」ともいえる学校の学校として、地域の思い

や願いを反映した学校、地域と学校が双方方向で連携する学校と理解しています。

現在、来年度に向けて準備が進んでいます。新中地域づくり協議会や同窓会を含めて、多くの地域諸団体のお力を借りて、地域で子どもを育てる企画が進んでいます。

その中で出てきたキーワードは、「あいさつ」です。日本一というと語弊がありますが、明るいあいさつのある地域、学校が大切だと準備会では確認しています。

新中中学校の今

- ・平成27年 96名
- ・平成28年 85名
- ・平成29年 78名
- ・平成30年 69名、大幅な生徒数減少を見越し、目指す人間像を、「グローバルな視点で、将来生活する地域を創造できる人間」として、果敢な挑戦をしています。

- 学校課題を、不動の新中学校教育目標の「やさしく、よく、あたらしく」に基づき、三点を整理
- (1) ふるさと(新中・佐渡)に誇りを持ち、互いの良さを認め、協力する力の育成
- (2) 体力の向上と心身の健康の増進
- (3) 自ら学び、考え、創造する力の育成

- 学校の旗印(キャッチフレーズ)の制定
- ・「地域とともに歩む、志ある文武両道の学校」
- 課題解決への代表的な取組
- (1) 総合の時間の充実
- ・ふるさと学習の徹底(新中・銀山、新中音頭、裂織等)
- ・地域の人材活用(茶道、華道、職業講話等)
- ・課題解決型職場体験の採用(地域の事業所の課題を共有)
- ・地域貢献活動の採用(山王祭、天王祭を校参加)

- (2) 部活動改革
- ・部活再編(卓球部、バドミントン部の廃部、男子は野球部、バスケット部、女子はバレー部、男女でソフトテニス部、陸上・駅伝部は特設部、バスケット部男子は条件付き復活)
- ・生徒の自立的な部活動の推進

- (3) 勉強祭り」の工夫(定期テスト前の全校学習等)
- ・授業改善(全教員の外部講師招聘の研究授業)
- ・家庭学習習慣の確立(学習計画の作成と反色)
- ・朝読書の徹底(朝10分間)
- ・漢検英検等の受検奨励

- その他に、次の取組にも力を入れていきます。
- いじめ克服の取組強化
- ・生徒主体の仲間づくり集会の開催
- ・「いじめ対応教職員七箇条」の制定
- 広報活動の充実
- ・学校だより(月1回)、週刊だより(月2回以上の定期発行)
- ・ホームページの工夫(70周年企画として、歴代の部活動成績や生徒会誌表紙の掲載、「新中中学校」で検索して「新中中学校」)
- コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の活動開始
- ・今年度中学校区で、佐渡市のモデル校指定を受けました。

- ・新中地域づくり協議会を含め、多くの関係機関と協働して、地域の子どもの教育にあたります。

結びに、来年1月12日開催の第27回「立元服式」を土曜開催とし、3年間の学びの成果を披露する場として位置づけています。同窓生はじめ地域の方々のご参加、果敢な卒業生を祝っていただければ幸いです。

職場体験学習を通して

杉本 正雄
前西50年度卒

今年、平成30年4月1日に新徳郵便局に勤務して参りました。10年振りに地元職場に帰って来てまず感じたことは、お客様が減少してしまつたこと、高齢化が進んでいること、といったことです。10年ほど昔とよく言いますが、当時の印象と重ね合わせながら日々仕事に取り組んでいます。そんな中、新徳中学校の校長先生より職場体験学習の依頼を受けました。久しぶりの地元へ帰って来たこと、母校への恩返しの意味を含めて受け入れることにしました。前任の職場でも受け入れた経験があったため同じ要領と考えてはいたのですが、改めて以上で大変なことに気が付きました。今年度、職場体験のモデル校となつた新徳中学校は、佐渡市教育委員会が取り入れていた課題解決型課題



職場体験学習の様子

悪たれの中学生

市橋 法子
前西50年度卒

私にとつて、新徳中学校で過ごした時間は、友と笑い、泣き、色々な体験をした、思い出多き時代です。今でもそんな時代を共に過ごした友達と毎年同窓会を開催しています。毎年8月14日、新徳の夏まつりに合わせ、時間と場所を固定して開催する同窓会が15年以上続いています。また島外に住む同級生が帰省した時にも開催され、時には恩師も招いて開催しています。その仲間と中学時代のことを

職場体験を通して

杉本 正雄
前西50年度卒

で、佐渡の課題や良さについて、体験を通して中学生らしいアイデアや提案を職場に反映していくことで、受け入れた企業にとつても充実した機会を作るとつても充実した職場の仕事を経験するに止まらず、職場の課題を解決する手段を探るというものです。郵便局では民間化以降、郵便・貯金・保険の三事業以外に地方公共団体事業や地方創生に関する取組等、社会貢献活動としての仕事に携わっています。今回の生徒3名には、社会貢献の視点から「まもりササビ」についてササビの取組内容向上に関する課題を考案していただきました。導き出したアイデアは「簡便なササビ通じて本社に提案していただく」ということ。このアイデアが実現すれば、まもりササビの取組がさらに進みます。今回の生徒3名には、社会貢献の視点から「まもりササビ」についてササビの取組内容向上に関する課題を考案していただきました。導き出したアイデアは「簡便なササビ通じて本社に提案していただく」ということ。このアイデアが実現すれば、まもりササビの取組がさらに進みます。

標をつなぐ

杉坂 芳樹
平成19年度卒

陸上競技の魅力、駅伝の楽しさを知ることで出来たのは中学生の頃であり、市民ランナーとしての競技を続けている。今、私の原点となっている。今は陸上顧問、上級生が考える陸上・駅伝の練習メニューは厳しかった。当時の話題になると、「本当にきつかった」と、みんなが口を揃えて言うほどだった。厳しい練習の甲斐もあり、私は800mで県大会に進むことが出来た。上越で行われ、とても暑い日だった。全国大会への参加記録を載せ、予選から積極的なレースを試みた。しかし、参加記録には届かなかった。熱中症になってしまった。決勝は難しいと感じ、棄権も考えたが引率の清野先生に、「棄権をしたら記録は残らない。歩いてでもゴールをすれば入賞だ」と鼓舞された。決勝を走る準備が出来ない状況だったが、最後までやりきりたい」という気持ちで走り続けた。結果は6位入賞。満足

果敢

相田 大気
生徒会長

平成30年度の生徒会は、「果敢」切り拓けた私たちの道一報、二つ目は「仲間づくり集会」です。例年十一月に行われていた、いじめ防止に考えられた、今年には新たな興味を持つことや、先輩後輩関係の見直しを目的とした行事に変更しました。前半の仲間作りでは、好きなことのアンケートを取り、できるだけそれが一致するグループを作り、各グループのリーダーに沿って、川柳大会や、ビンゴ大会を行いました。全て



相田 大気

果敢、生徒会長としての決断と責任。果敢、生徒会長としての決断と責任。果敢、生徒会長としての決断と責任。

果敢、生徒会長としての決断と責任。果敢、生徒会長としての決断と責任。果敢、生徒会長としての決断と責任。

恩師の言葉

中部 俊幸

新徳中学校には、平成14年4月から平成20年3月まで6年間お世話になりました。異動早々に鬼太鼓が学校にやってきました。鬼太鼓が学校にやってきました。鬼太鼓が学校にやってきました。

新徳中学校三つの思い出

中部 俊幸

一つ目は平成14年度から3年間文部科学省から指定を受けた「学力向上フロンティア事業」です。当時、佐渡では学力向上

平成30年度同窓会役員

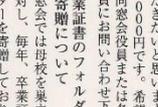
- 顧問 大谷 直治(新中校長)
- 会長 松田 正泰(上新徳)
- 副会長 市橋 良夫(上野)
- 高橋 栄子(下新徳)
- 庶務 中野 信幸(北)
- 会計 山田 裕子(大野)
- 幹事 土屋 一樹(内)
- 土屋 貴博(内)

同窓会からのお知らせ

●同窓会総会のご案内
新徳在任の皆様はご存じかと思いますが、新徳中学校同窓会では毎年1月に同窓会総会を開催しております。昨年度は36名の同窓生の皆様に参加をいただきました。本年度も例年の通り1月23日に開催予定しています。今まで参加できなかった方も是非参加していただきたいと思います。会費は2,000円です。希望される方は同窓会役員または各学年の評議員にお問い合わせ下さい。●卒業証書のフォルダー・松

お問い合わせ先

〒952-0006
佐渡市新徳町生野7-19
新徳中学校内
新徳中学校同窓会事務局
電話 0259-22-1007
FAX 0259-22-1008
e-mail nihon-j@sndc.edu.jp



新徳中学校の石碑